

**COVID-19 パンデミックが結核対策に及ぼす壊滅的な影響を示す新たな報告:
2025 年までに 630 万人以上の結核患者発生、140 万人の結核死亡が上乗せに**

隔離・移動制限・結核サービスの中断の継続は、何十万人もの人々に大惨事をもたらす恐れがある。

ジュネーブ(2020年5月6日)- 本日発表された報告書によると、COVID-19によるパンデミックへの世界的な対応は、結核(TB)サービスに予期せぬ多大な影響をもたらしており、診断、治療、予防サービスへの制限により今後5年間で結核の年間発生患者数と死亡者数を増加させると予想され、少なくとも最近5年間分の結核対策の進展は帳消しになる。ストップ結核パートナーシップが発表したモデル分析によると、3ヶ月の社会封鎖(ロックダウン)とその後10ヶ月にわたって結核サービス復旧されるとした場合、世界では2020年から2025年の間に、さらに630万人の結核患者と140万人の結核死が過剰に発生する可能性があるとしている。

「私たちは間違いから決して学んでこなかった。過去5年間、呼吸器疾患である結核は、他の優先事項のまえて『結核問題』がずっとかすんでしまったため、依然として最大のキラー感染症であり続けている」と、ストップ結核パートナーシップの事務局長である Lucica Ditiu 博士は述べた。「今日、各国政府は、差し迫った COVID-19 の惨事と長期にわたる結核の蔓延との間を往々にして曲がりくねった道を歩んでいるが、結核を再び無視することは、世界で最も致命的なこの感染症に対する努力によって得られた少なくともこの5年の進捗を消し去り、あらたに何百万人もの人々が過剰に結核を罹患することになる。」

新たな研究は、ストップ結核パートナーシップがインペリアル・カレッジ、アベニール・ヘルス社、ジョンズ・ホプキンス大学と協力して実施したもので、USAID(米国国際開発庁)の支援を受けている。このモデル分析は、世界の結核負担の54%を担っている20の高負担国におけるCOVID-19のパンデミックの影響と関連する対策についてストップ結核パートナーシップが行った迅速評価(別紙1)から得られた仮定に基づいている。

モデル分析では、負担の大きい3カ国(インド、ケニア、ウクライナ)に焦点を当て、これらの国の推計値を外挿して、COVID-19の結核への影響の世界的な推計値を作成した。著者らは、このモデルは他のどの国でも再現可能であり、データに基づく意思決定や財政上の要請にも利用できるという。

結核は忘れられた呼吸器疾患で、今でも年間150万人が死亡しており、これは他のどの感染症よりも多い。それでも結核の罹患率と死亡率は、高結核負担国が結核患者を早期発見し適切な治療を行う対策を強化した結果、ここ数年着実に減少してきた。

2018年、国連総会(UNGA)の結核に関するハイレベル会合で、各国首脳は結核対策の大幅な拡大を公約した。2018年には、おかげでこれまでよりも60万人多い結核患者が発見され、治療を受けた。2019年においても私たちは

非常に有望な進展を見ていた。COVID-19 の大流行は、特に実施されているその対応策を考えると、UNGA の目標を達成する上で大きな障害であることが証明されている。結核患者の発見が劇的に減少し、治療がしばしば遅れ、治療中断リスクと薬剤耐性結核患者増加の可能性が増加しているからである。

モデル分析によると、3ヶ月の封鎖とそれに続く10ヶ月の長期にわたる結核サービスの復旧により、2021年の世界の結核罹患率と死亡率は、それぞれ2013年から2016年に見られたレベルまで上昇し、結核終息に向けたこれまでの進捗は少なくとも5年から8年分後退することを示している。

COVID-19 が結核に与える影響を最小限にし、何百万人もの命を救い、UNGA の目標達成への軌道に乗せるために、各国政府は封鎖期間中には結核診断、治療、予防の継続性を確保するための迅速な対策を講じる必要があり、更に封鎖後の復旧時期には、結核の積極的診断、追跡、治療、予防のための大規模なキャッチアップ努力を行う必要がある。

ストップ結核パートナーシップとパートナーは、すべての国、特に高結核負担国に対してリーダーシップをもって、COVID-19 対応期間中にも結核への対応を継続すること、最も弱い立場にある人々の方策を含めて積極的な対策を講じること、経済的苦難、孤立、偏見、差別からの保護を提供することを求める。我々は、政府に対し、COVID-19 の対応の中で結核サービスを切れ目なく継続するために必要な人的・財政的資源を確保することを強く求める。

これが前例のない状況であることを認識し、ストップ結核パートナーシップは、いくつかの技術的、革新的、人間中心のプラットフォームを通じて、各国の結核対策計画とパートナーへの支援を継続している。また、結核と COVID-19 の資源へのアクセスを確保するため、ストップ結核パートナーシップは、[結核と COVID-19 専用のウェブページ](#)を通じて、国やパートナーからの活動、経験、提言を共有している。ストップ結核パートナーシップ日本は、各国の結核と COVID-19 の状況を示す[インタラクティブ マップ](#)を発表した。

###

その他のストップ結核パートナーシップ COVID-19 のリソース

- ストップ結核パートナーシップは、各国の結核と COVID-19 の状況を示す[インタラクティブ マップ](#)を発表した。
- 結核と COVID-19: いまなすべきことは?
この[ウェブリソース](#)には、国やパートナーからのガイドラインや経験を含め、結核対策や結核患者のための有用な情報が含まれている。

ストップ結核パートナーシップについて

ストップ結核パートナーシップは、スイスのジュネーブに本部がある、国連傘下の独自の団体です。2030年までに結核を終息させるために結核対策界に革命を起こすことを誓約しています。世界中で2,000以上のパートナーと協力して、分野を越えた連携を推進しています。ストップ結核パートナーシップの様々なチームとイニシアチブは、大胆かつ賢明なリスクを賭けて、革新的な方法や発想、解決法を見出して資金を提供し、支援しています。これにより、結核コミュニティが政治的な最高レベルでの発言力を持ち、全ての結核患者が支弁可能で質の高い、人間中心の治療が受けられるよう努めています。